

伊勢広域環境組合

ごみ処理施設整備基本構想（案）

【概要版】

1 目的

伊勢広域環境組合のごみ処理施設は、老朽化・損傷が進んでおり、早急に施設の更新について検討しなければならない時期に達しています。将来にわたり安全かつ安定的なごみ処理体制を継続し、効率的で地域に貢献できる施設を整備するため、ごみ処理施設整備基本構想を策定しました。

2 経過

- ・昭和 50 年度 可燃ごみ処理施設供用開始
- ・平成 4～7 年度 焼却炉の更新
- ・平成 19～23 年度 焼却炉主要設備の取替
- ・平成 28～37 年度 ごみ処理施設長期包括運営管理業務委託
- ・平成 29 年 6 月～ ごみ処理施設基本構想策定委員会による検討

3 基本コンセプト

安全・安心を確保しつつ、循環型社会の形成と廃棄物エネルギーの有効活用にも配慮した、地域に親しまれる施設とします。

基本方針 1 安全・安心に配慮した施設

基本方針 2 構成市町で発生する一般廃棄物を安定的に処理できる施設

基本方針 3 経済性・効率性に優れた施設

基本方針 4 資源とエネルギーを高効率に回収し有効利用を図ることが可能な施設

基本方針 5 処理に伴う二酸化炭素等の排出量の低減が図られた環境に優しい施設

基本方針 6 地域に開かれ親しまれる施設

基本方針 7 地域社会に貢献できる施設

基本方針 8 災害に強く災害時においても地域に貢献できる施設

4 現状と基本構想（案）

		現状	基本構想（案）
構成市町		伊勢市・明和町・玉城町・度会町	変更なし
分別方法		各市町のごみ分類により、分別	変更なし
ごみ処理施設の概要	可燃ごみ	処理量：55,522t/年 処理能力：240t/日 処理方法：焼却 発電又は熱利用：なし 環境啓発機能：なし	処理量： 51,463 t/年 処理能力： 211 t/日 処理方法： 焼却、溶融 又はメタンガス化 発電又は熱利用： あり 環境啓発機能： あり
	粗大ごみ 缶・金属類	処理量：3,015t/年 処理能力：45t/日 処理方法：破碎	処理量： 2,847 t/年 処理能力： 15 t/日 処理方法：破碎
	びん	処理量：1,449t/年 処理能力：10t/日 処理方法：選別・保管	処理量： 1,275 t/年 処理能力： 6 t/日 処理方法：選別・保管
	ペットボトル	処理量：378t/年 処理能力：- 処理方法：保管	処理量： 329 t/年 処理能力： 2 t/日 処理方法： 選別・圧縮梱包
	プラスチック製 容器包装	処理量：1,287t/年 処理能力：24t/日 処理方法：選別・圧縮梱包	処理量： 1,280 t/年 基本的には現在の圧縮梱包機を継続利用し、処理方法については今後も検討を進めます。

5 事業方式

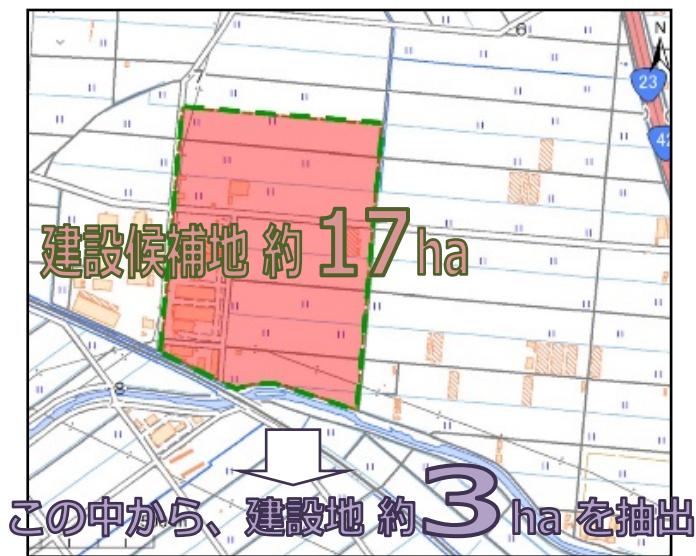
事業方式は、DBO方式とします。

- 施設を伊勢広域環境組合で所有し、設計・建設・運営・維持管理を民間事業者に一括発注する方式で、DBOは**Design-Build-Operate**(デザイン・ビルド・オペレイト)の略。

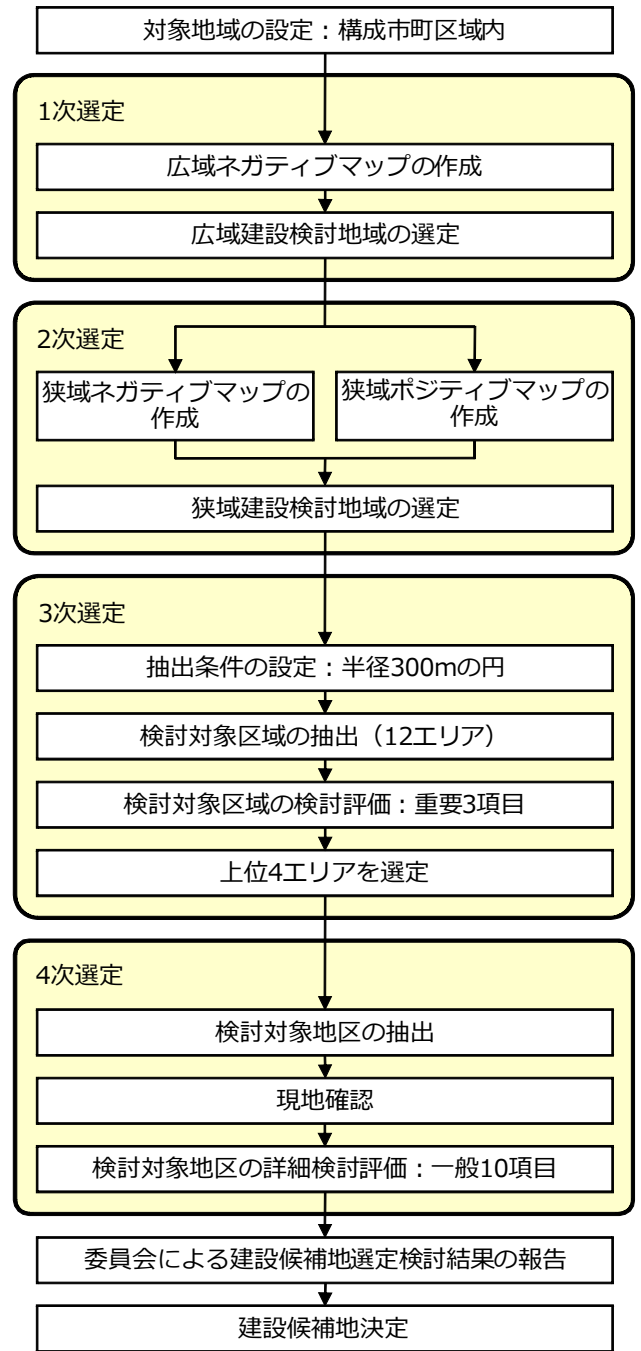
6 建設地選定

伊勢広域環境組合ごみ処理施設基本構想策定委員会により、4次選定まで実施しました。1次、2次選定では候補地抽出の参考となるマップを作成し、3次選定では各市町から抽出された12エリアを絞り込み、4次選定では、絞り込まれた上位地区の順位付けを実施しました。選定結果報告を各市町の首長及び副市長で構成する管理者会へ報告した後、管理者会による協議の結果、4次選定の結果において1位であった伊勢市西豊浜町清掃工場周辺地域に、現有地を加えた地区17haを建設候補地とすることとしました。

今後は建設候補地のうち、3ha程度の土地を建設地とする予定です。



建設候補地 位置図



建設候補地選定フロー図

7 スケジュール

	平成（西暦）						
	31年度 (2019)	32年度 (2020)	33年度 (2021)	34年度 (2022)	35年度 (2023)	36年度 (2024)	37年度 (2025)
基本計画	■						
環境影響評価	■	■	■				
事業者選定			■	■	■		
施設整備					■	■	■

8 用語解説

用語	説明
長期包括運営管理業務委託	公共施設の運営管理について、10年～20年間の長期にわたり民間事業者が施設を適切に運営・維持管理し、一定の条件を確保できれば、方法など詳細については民間事業者の裁量に任せるといふ、性能発注の考えに基づく委託方式をいう。
循環型社会	廃棄物等の発生抑制、循環資源の循環的な利用及び適正な処分が確保されることによって、「天然資源の消費が抑制され、環境への付加ができる限り低減された社会」をいう。
メタンガス化	生ごみ、紙ごみ、し尿・浄化槽汚泥等の廃棄物系バイオマスが嫌気条件下（酸素の無い状態）で微生物の働きによって分解され、メタンガスが生成されることをいう。
広域ネガティブマップ	自然災害が生じうる地域や、自然環境・史跡等の保護に影響を及ぼす地域等であるため、建設候補地から除外する区域を示したマップ。
狭域ポジティブマップ	道路・上下水道・電力等の社会基盤整備状況から建設に有利な条件がある地域を示したマップ。
狭域ネガティブマップ	教育・福祉・医療・保健施設及び歴史的財産に影響を及ぼす恐れのある地域を示したマップ。
基本計画	今後策定を予定している「ごみ処理施設整備基本計画」を指し、施設の詳細な内容を盛り込んだ計画をいう。
環境影響評価	廃棄物処理施設の建設及び設置に必要な手続きで、大気や水質等の環境への影響を把握し保全計画を策定することで、一般的に環境アセスメントとも言われている。 廃棄物処理施設の整備に当たって、事業の実施が環境に及ぼす影響について環境の構成要素に係る項目ごとに調査、予測及び評価を行うとともに、これらを行う過程においてその事業に係る環境の保全のための措置を検討し、この措置が講じられた場合における環境影響を総合的に評価することをいう。
事業者選定	その事業を実施する事業者を選定する行為。近年のごみ処理施設整備事業では、価格だけでなく、保有する技術や運営に対する非価格面での評価を取り入れた「総合評価方式」や「プロポーザル方式」と呼ばれる手法で事業者を選定することが多い。

伊勢広域環境組合 業務課 整備推進係

〒515-0505 伊勢市西豊浜町 653

TEL 0596-37-1218

FAX 0596-37-1740

E-mail ikkj@iserisaikuru.jp

HP <http://www.isekouiki.or.jp/>